

3-4 瀬田唐橋

瀬田唐橋の歴史は古く、瀬田川の川底の発掘調査では古代の瀬田橋の基礎が見つかっています。「唐橋を制する者は、天下を制する」とも言われた要衝の地に架かる瀬田橋を、今も多くの人や車が行き交っています。

1. 日本三古橋の一つ瀬田橋

瀬田川に架かる瀬田橋(唐橋)は、山崎橋・宇治橋とならび日本三古橋の一つに挙げられます。これらの橋は、いずれも都の周辺に位置し、古代から架けられており、維持管理には国家が直接関与するという方法がとられていました。この頃の橋脚は瀬田川の底から発掘されており、具体的な姿を想像することができます。



写真3-4-1 古代瀬田橋の基礎

2. 天下を制するもの

瀬田橋は、日本最大の湖である琵琶湖とそこから流れ出す瀬田川の東西を結ぶ唯一の陸路でした。琵琶湖西岸の天津から東岸の草津へ移動する際には、近道で便利であるけれども風波によって安定的に交通できない船と、遠回りではあるものの安定的な通行ができる唐橋経由の陸路があることから

生まれた諺が「急がば回れ」です。この諺からもうかがい知ることができるように、湖上交通とは異なり、陸路は橋が架けられている限り安定的な交通が可能となり、経済的にも軍事的にも極めて重要な位置を占めました。

ですから、壬申の乱(672年)以降、恵美押勝の乱(764年)や源平合戦や南北朝の内乱、本能寺の変(1582年)など日本列島を東西に二分するような大きな戦いの舞台となり、「唐橋を制する者は、天下を制する」とも言われたのでした。

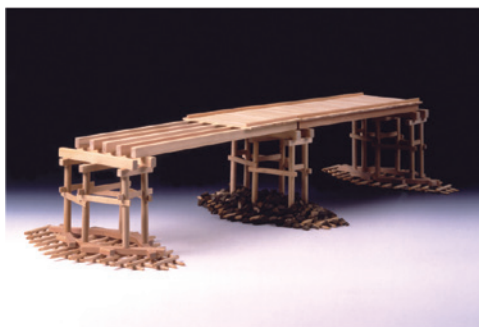


写真3-4-2 古代瀬田橋の復元模型
(滋賀県文化財保護協会所蔵)

3. 名所としての瀬田唐橋

瀬田橋は名所としても知られていました。近江八景の一つ「瀬田夕照」の舞台であり、広重に取り上げられたほか、『近江名所図』『近江名所図会』などにもみることができます。その景観は、芭蕉を始めとする多くの歌人・俳人らに題材として取り上げられました。

瀬田橋の欄干に架けられている擬宝珠はことに有名で、瀬田唐橋の代名詞ともなっています。「南京玉すだれ」の中に「瀬田唐橋 唐金擬宝珠」という言葉が登場します。

日本の川に架けられた橋の中で、多くのエピソードを持ち、美しい景観から名所でもあったのが瀬田唐橋です。

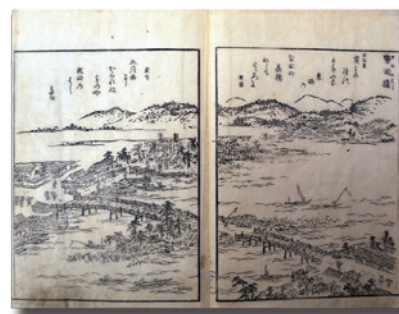


図3-4-1 江戸時代の瀬田橋(『近江名所図会』)



写真3-4-3 瀬田橋の擬宝珠



写真3-4-4 瀬田の唐橋(現在)